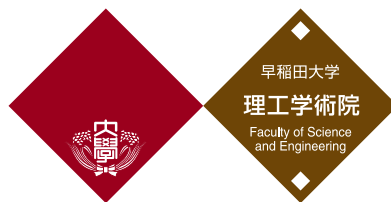




塔95号



発行＝早稲田大学 理工学術院
東京都新宿区大久保3-4-1
03-5286-3000(理工学術院統合事務所)
2020年3月発行

CONTENTS

メッセージ

科学の夢 竹内 淳	02
未来を作しましょう 戸川 望	03
創造の実践 菅野 重樹	03
輝かしい未来 若尾 真治	03

ニュース

リアルタイムな都市浸水予測が可能に	04
再生可能エネルギーの大量導入に向けて	04
文化的配慮ロボットの実現に向けて	05
光電子情報処理研究開発委託先に採択	05

ごあいさつ

2020年度 学部・大学院1年生ご担当の教員から	06
ご着任の教員から	09
ご退職の教員から	11

イベント

西早稲田キャンパスの1年	14
--------------	----



科学の夢

理工学術院長

竹内 淳

TACKEUCHI, Atsushi

ご卒業ならびにご入学おめでとうございます。皆さんは、門出を迎えて大いなる夢を抱いていることと思います。理工科が早稲田の地に開設されたのは112年前の1908年のことでした。それ以来、数多くの学生たちが早大理工で科学を学び、探求し、そして巣立っていました。早大理工の学生たちにとって、理工のキャンパスは初々しい志を抱いて科学を本格的に学ぶ青春の地であったわけです。この春から、この地を踏む方は科学の魅力を存分に楽しんで下さい。世界最先端の科学があなたを待っています。そしてこの地から飛び立つ人は、早大理工で培った実力を持って科学と社会の未来をぜひ切り開いていって下さい。

言うまでもなく科学には夢があります。生物の一個体としての人間の運動能力と知的能力は極めて限られています。科学技術がその限界をはるかに凌ぐ可能性を私達に与えてくれました。これからの100年では、太陽系内の他の惑星への進出や人間の寿命の延長、そして人間の思考能力を遥かに超える人工知能の誕生など、20世紀後半のSFや映画で描かれていた途方も

ない夢のいくつかを実現できるでしょう。人類は知識、空間、時間において到達可能な翼の範囲をさらに広げることになります。皆さんも次の世紀に向けて人類社会に貢献する偉大な夢をぜひ描いてみてください。

一方で翻って世界を眺めてみると、近隣の国での核武装や超大国アメリカの大統領の想定外の動き、さらに南シナ海での19世紀的な領土拡張の争いや新種のウィルスの感染拡大など、世界は混乱の中にあるようです。そして日本では、前例のない急速な少子高齢化が進行しています。科学技術が長足の進歩を遂げようとしている現代において、人間の社会は逆に深刻な停滞と退化の渦に巻き込まれています。

混迷の時代の中にあって正しい進路を指し示すために必要なのは、時代の動きを冷静に観察し、人間の抱く様々な情念をも考慮して、合理的に社会の動きを判断する能力です。早大理工で科学を学ぶ皆さんが、科学の知識だけでなく、幅広い教養と論理的な思考力もしっかりと身に着け、心に描いた科学の夢を近未来の社会で大きく花開かせることを期待します。

早大理工の歩み

1882年（明治15年）	東京専門学校創設
1902年（明治35年）	早稲田大学開校
1908年（明治41年）	理工科を新設
1920年（大正9年）	新大学令による大学となり、理工科を理工学部と改称
1949年（昭和24年）	新制早稲田大学開設
1951年（昭和26年）	新制早稲田大学大学院設置（修士課程）
1953年（昭和28年）	大学院に博士課程を設置
1967年（昭和42年）	大久保キャンパスへの理工学部全学科の移転を完了
2004年（平成16年）	理工学術院設置
2007年（平成19年）	理工学部を基幹理工学部、創造理工学部、先進理工学部に再編
2009年（平成21年）	大久保キャンパスを西早稲田キャンパスに名称変更
2010年（平成22年）	理工学術院の3学部・3研究科に「国際コース」を設置
2018年（平成30年）	学部課程「新・英語学位プログラム」スタート



未来を作りましょう

基幹理工学部
研究科長

戸川 望

TOGAWA, Nozomu

基幹理工学部・研究科に入学されたみなさん、学部・研究科を卒業・修了されたみなさん、誠におめでとうございます。

基幹理工は、数学と基礎工学をベースに理学・工学を追求することを理念としています。こうした趣旨を源泉とする学科・専攻が結集し2007年に発足しました。2019年には学科専攻の専門領域を横断する新たな専攻として、基幹理工学研究科に材料科学専攻も新設されました。また2020年には装いも新たに機械科学・航空宇宙学科がスタートし、基幹理工に新たな一ページを加え

ることになります。

基幹理工学部・研究科ではさらに、基幹副専攻を改革し、より多くの学生のみなさんが幅広い学習環境で副専攻を履修できる制度を導入しました。自分の未来・夢を目指して、自分自身の学科・専攻だけでなく、分野横断的にさまざまな学問を修得していただければと思っています。さらに副専攻制度に加えて、Major/Minor制度を柱とする英語学位プログラムの導入や、海外留学制度の発展・拡充など、基幹では、さまざまな取り組みも行っています。

基幹理工学部・研究科で学んだみなさんは、基幹副専攻制度をはじめ、高学年や大学院では、ゼミ・卒業論文、修士論文、博士論文等の研究活動を通して、非常に多くのことを修得し、社会における展開力を身につけたことと思います。新しい社会でのご活躍を期待しております。

基幹理工学部・研究科には、世界最先端の研究教育を行っている教員や設備があり、非常に恵まれた環境にあると言えます。この環境をいかに使いこなすかがみなさんに求められています。新入生のみなさんは、ぜひ基幹理工学部・研究科にて自分自身の大きな未来をつかみ取ってください。



創造の実践

創造理工学部
研究科長

菅野 重樹

SUGANO, Shigeki

創造理工学部・研究科に入学された皆さん、そして卒業・修了された皆さん、おめでとうございます。

新入生諸君は「創造」というタイトルに何を期待するでしょうか。また、卒業・修了生諸君は創造理工で何を学べたでしょうか。私は、「創造」とは自分自身や社会を変革し、新たな価値観を築くことだと考えています。その力である創造力を身に付けるために

は、個々の知識の吸収だけではなく、知識と知識のつながりを知ることが必要です。新しいつながりに気付いたとき、イノベーション、技術革新が起きます。気付くには経験を積むこと、それも実社会と結び付いた体験をすることが効果的です。創造理工とは、まさにその経験を身に付けるための実学を実践する場です。創造理工がカバーする領域は、都市計画・設計、自動車、AI・ロボット、医療・福祉、品質管理、生産システム計画、防災、環境、資源・エネルギーと様々ですが、いずれも人と社会に関わる実学です。創造理工の新入生諸君はこれから実学のための創造力を育む一歩を踏み出し、卒業・修了生諸君は培った創造力を実社会で試すことになります。

現代社会は解決すべき多くの課題を抱えています。その際に大切なのは、「創造」を意識することで、未来を考え、新しい道標を見つけることです。諸君のさらなる前進を期待しています。



輝かしい未来

先進理工学部
研究科長

若尾 真治

WAKAO, Shinji

新入生の皆さん、先進理工学部・研究科への御入学、誠におめでとうございます。先進理工では、学部・大学院の両課程を通じて「教育」と「研究」が切れ目なく密に統合されていることが最大の特長です。手厚い教育環境のもと十分な基礎学力と専門的知識を修得し、その土台の上で新たな知の創造を実現する研究力を培うことができる充実した体制を整えています。学問はもちろんのこと、サークル活動などの課外活動も含めて、数多くの選

択肢が早稲田大学では用意されています。その中から自分の意志で好きな方向に進進できる「自由」を存分に謳歌してください。このキャンパスでこれから出会う生涯の友人達とともに皆さんが夢を実現することを願っています。

これから世界の舞台に羽ばたいていく卒業生・修了生の皆さんにも、心からエールを送ります。若い時の経験は、その後の人生を方向付ける重要な意味を持ちます。新たなステージに進んだ後も、これまでと同様に果敢にチャレンジし続け、さらに多くの経験を積み重ね、皆さんの可能性を最大限に拡げていただくことを期待しています。是非、母校にも足を運んでください。このキャンパスで皆さんと再会できる日を今から楽しみにしています。

最後に、皆さんの未来が明るく前途洋々であることを祈念して、お祝いの言葉といたします。

リアルタイムな都市浸水予測が可能に

早稲田大学理工学術院の研究者4名、および一般財団法人 リモート・センシング技術センターの研究グループは、東京都23区で発生する都市浸水をリアルタイムで予測するシステムを開発し、社会実装を可能としました。

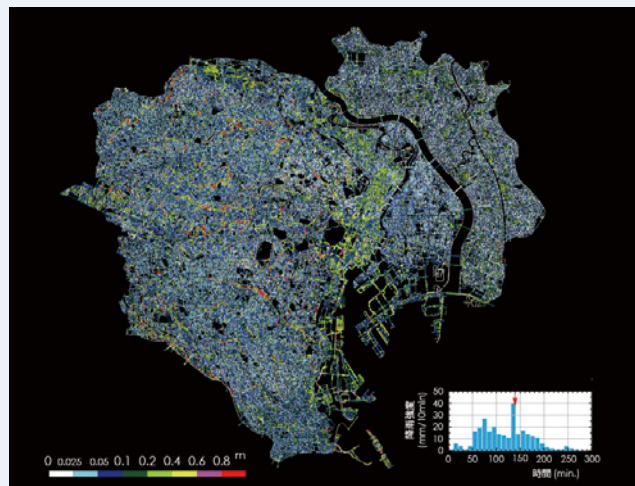
東京都23区がこれまでにない規模の豪雨に襲われたときに、どのような規模の浸水が発生するのか、浸水が深刻化するプロセスとはどのようなものか、事前にどのような対策を講じておけばどの程度まで被害軽減が図れるのか、という問いに対して、本研究では予測した結果を踏まえた答えを提示することを目標としました。

研究の第一段階として、早稲田大学の関根正人教授が、東京に代表される高度に都市化されたエリアを対象に、「都市浸水」の発生とこれが深刻化するプロセスを水の流れを支配する力学原理のみに基づいて精緻に予測する手法を開発しました。本研究は2000年から長期にわたって取り組んでおり、完成した手法を「S-uiPS(スイプス)」(Sekine's urban inundation Prediction System)と名づけました。次に、第二段階としてS-uiPSの計算コードを高速化し、リアルタイムでの浸水予測が可能となるように取り組みました。

リアルタイムで浸水を予測するシステムは、まず東京都23区を対象に、2020年夏の東京オリンピック・パラリンピック

までには、十分な精度を有する浸水情報を継続的に提供できるような安定した運用を目指し、システムの社会実装を進めます。

S-uiPSによるリアルタイム浸水予測は、豪雨時の都市生活を大きく変え、被害軽減を実現する上で大きな波及効果があると考えています。予測精度に関しては、今後も可能な限りの検証を続けていきます。また、一目見て浸水の危険が察知できるように画像のわかりやすさをさらに追求していきます。

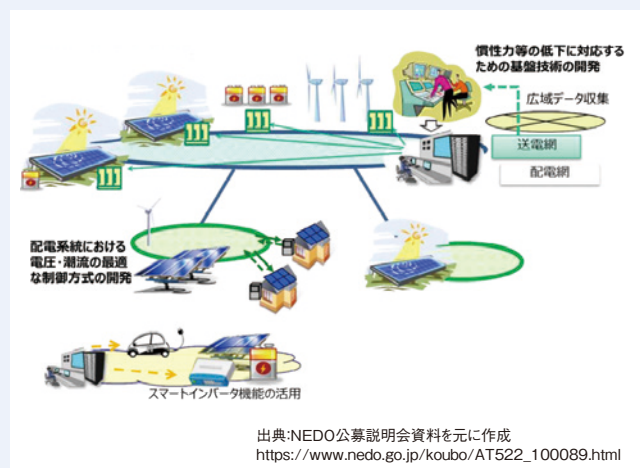


2005年杉並豪雨を対象としてS-uiPSにより計算された東京都23区の浸水深マップ

再生可能エネルギーの大量導入に向けて

2019年6月24日、早稲田大学スマート社会技術融合研究機構(ACROSS)(機構長:林泰弘・理工学術院教授)は、国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構が公募する「再生可能エネルギーの大量導入に向けた次世代電力ネットワーク安定化技術開発事業」にて、以下の研究開発項目について、委託事業者として採択を受けました。

- ①慣性力等の低下に対応するための基盤技術の開発
- ②配電系統における電圧・潮流の最適な制御方式の開発



出典:NEDO公募説明会資料を元に作成
https://www.nedo.go.jp/koubo/AT522_100089.html

本事業は、再生可能エネルギーの導入を将来的にわたって可能とするため、次世代の系統安定化に必要な基盤技術の開発を目指すもので、2019年6月から2022年2月(予定)までの3年間で実施いたします。

当研究機構では、関連機関と連携し、研究開発項目①では電力系統に慣性力を提供可能とするための基盤技術を開発するとともに、それらの導入効果を検証するために必要な電力系統解析の評価技術の開発を行います。研究開発項目②では、再生可能エネルギーが大量導入された状況下でも配電線の適正電圧を維持しつつ、電力品質維持を実現する配電系統潮流・電圧制御手法の研究開発を行います。

本事業を通じて、政府が掲げる再生可能エネルギーの導入を最大限加速させるという目標の達成に向けて、研究開発に取り組んでまいります。

「再生可能エネルギーの大量導入に向けた次世代電力ネットワーク安定化技術開発事業」事業の概要

再生可能エネルギーの導入を将来的にも可能とする、次世代の系統安定化に必要な基盤技術の開発として、電力系統の慣性力低下に対する対策技術や配電系統における電圧・潮流最適制御技術を開発し、電力系統の安定運用の維持と更なる再生可能エネルギーの連系拡大を目指す。

文化的配慮ロボットの実現に向けて

2019年9月9日、10日の二日間に渡って、国際シンポジウム「Machine Intelligence for Future Societies 2019」が西早稲田キャンパスで開催されました。学習する身体としてのロボティクスを軸に、「機械学習とその統合がもたらす未来社会」についてプレゼンテーションが行われました。

本学の客員教授であるGordon Cheng教授（ミュンヘン工科大学）は、「特に日本のような超高齢者社会では、機械知能がこのようなテクノロジーを達成するために重要な要素となります。将来、機械知能は、私たちの生活の一部になります。より知的な交流を行うことができる機械を作るため、技術的な限界を明確にする必要があります。このシンポジウムを開催するモチベーションの一つは、これまでの研究で直面した限界について議論し、今までの機械を作ってきた手法を果たして続けていくべきかを問うことでした。また、世界中のトップの研究者たちが講演するので、学生にシンポジウムへ参加してもらい、今現在、誰かが研究していることよりも挑戦的な研究に取り込むことについて考え始めてほしい」と話しました。

初日は、Cheng教授を始め、尾形哲也教授（早稲田大学）、Laurel Riek教授（カリフォルニア大学サンディエゴ校）、Björn W. Schuller教授（インペリアル・カレッジ・ロンドン）、そして、Michael Beetz教授（プレーメン大学）が機械知能に関する主要

なテーマについて語りました。

続いて、Yiannis Aloimonos教授（メリーランド大学）、Dana Kulic教授（モナッシュ大学）、國吉 康夫教授（東京大学）、そして、細田耕教授（大阪大学）がヒューマン・ロボット・インタラクションなど、より物理的な側面に関する発表を行いました。



Gordon Cheng教授



プレゼンテーションの合間にデモンストレーションも行われました

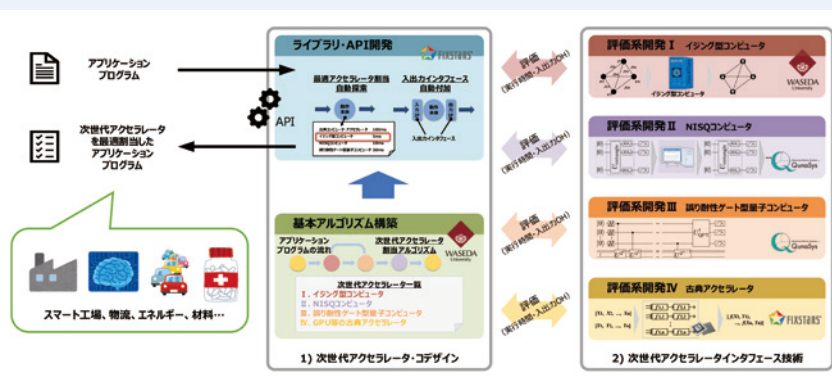
光電子情報処理研究開発委託先に採択

2019年10月28日、早稲田大学を代表研究開発機関（研究責任者：戸川望教授）とし、早稲田大学と株式会社フィックスターズおよび株式会社QunaSysの研究グループは、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構が管理法人を務める内閣府戦略的イノベーション創造プログラムの第2期課題「光・量子を活用したSociety 5.0実現化技術：光電子情報処理」の研究課題に関わる委託先として選定され、2019年度から研究開発に参画することとなりました。

Society 5.0では膨大なデータをAIが瞬時・自在に操作・解析し、その結果を人間にフィードバックすることが求められて

います。この実現に向けた一つの手法として次世代アクセラレータの提案・開発が進められていますが、次世代アクセラレータは処理・解析の得意・不得意な分野が存在しています。そこで、次世代アクセラレータを最適に活用できる仕組みの構築が必要とされています。

本研究では、個々の次世代アクセラレータを個別の計算資源と想定して、Society5.0に資するアプリケーション分野において、アプリケーションプログラム全体を効率的に利用できるシステムプラットフォームの構築を目指します。



「2020年度 学部・大学院1年生ご担当の教員から」



自ら学ぶ

教授
情報理工学科

上田 和紀
UEDA, Kazunori

准教授
数学科

薄葉 季路
USUBA, Toshimichi

ご入学おめでとうございます。早稲田大学の一員となられた皆様を心より歓迎いたします。大学は今までと比べて、学ぶ内容や生活に関して様々な面で自由であると同時に、今まで以上に自立と自律を求められる場所です。色々なことに自ら挑戦し、様々な学問を自ら広く深く学ぶ必要が出てきますが、我々もそのための助力は惜しみません。皆様が有意義な学生生活を送れることを願っております。



大志を抱け

教授
機械科学・航空宇宙学科

柳尾 朋洋
YANAO, Tomohiro

教授
情報理工学科

石川 博
ISHIKAWA, Hiroshi

ご入学おめでとうございます。皆さんは人生の出発点に立ったところですが、大学4年間はあつたか、その後の数十年でもあつたかという間です。大学では、生涯の友人をたくさん作って下さい。そして、小さくまとまろうとせず、大きな志を持ってください。人間、最期に最も後悔するのは、チャレンジしなかったことなのだそうです。自分の考えや気持ちに忠実に、人のいうことなど気にせず生きて下さい。



ようこそ早稲田理工へ

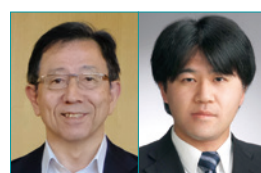
教授
応用数学科

久藤 衡介
KUTO, Kousuke

教授
機械科学・航空宇宙学科

太田 有
OHTA, Yutaka

ご入学おめでとうございます。これから始まる大学生活に期待や不安で心が渦巻いている人も多いことでしょう。また、不本意な思いを残しつつ西早稲田キャンパスの門をくぐった人もいることでしょう。みなさんが卒業時に「早稲田に入ってよかった」と思える大学生活がおくれるよう、私たちは高水準な講義や研究指導で応援します。まあ、せっかく来たのだから、まずは無理にでも早稲田を好きになってみては!



学生時代をどう過ごすか?

教授
電子物理システム学科

宇高 勝之
UTAKA, Katsuyuki

教授
情報通信学科

小川 哲司
OGAWA, Tetsuji

ご入学おめでとうございます。他者との共創の価値が高まり、自分ならではの新たな視座の探求や自分が置かれた環境において貢献しようとするマインドが重要になってきました。無論、それらは一朝一夕に身につくものではありません。次の世の中を想像しつつ、必要な道具を揃えること(基礎学問の深い理解)を怠らないでください。そして、多様な経験によって自分の可能性が無限に広がることを体感してください。



ようこそ、学問の世界へ

教授
機械科学・航空宇宙学科

吉村 浩明
YOSHIMURA, Hiroaki

専任講師
応用数学科

早水 桃子
HAYAMIZU, Momoko

ご入学おめでとうございます。これまで皆さんは答えのある問題を解く練習を沢山されてきたと思いますが、大学での勉強や研究では、誰も正解を知らない問題に挑戦することや、誰も考えたことのない問題を自力で探ることがメインです。険しい山道ですが、他の学生諸君や教員と意見を交わしながら楽しんで登ってください。大学を卒業する頃には、かつて想像もしなかった展望が目の前に開けていることでしょう。



知恵を育てる

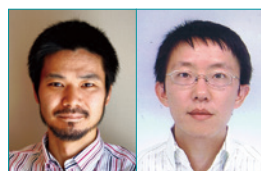
教授
情報通信学科

嶋本 薫
SHIMAMOTO, Shigeru

教授
表現工学科

尾形 哲也
OGATA, Tetsuya

2045年にAIが人間の能力を超えるシンギュラリティが来ると言われており、知識に元づく認識や作業の多くはAIに置き換わる可能性があります。しかし人の知恵や工夫はそう簡単にAIで可能になるとは思えません。これからの大学生活において皆さんは多くのことを学び、知識を蓄えると同時に根底にある先人達の知恵や工夫を読み取り、自ら新しい知恵を創造できるよう常に鍛錬を行って下さい。



広い視野をもって

教授
数学科

永井 保成
NAGAI, Yasunari

教授
電子物理システム学科

史 又華
SHI, Youhua

入学おめでとうございます。忙しい大学生活、いま気持ちいいこと、今すぐ役立つことを優先しがちです。しかし、今日の快楽は明日の後悔を招くかもしれないし、いま役立つことはすぐに時代遅れになってしまうかもしれません。一見面白くなさそうで、何の役に立つかわからないことの中に、あなたの人生の宝物が潜んでいるかもしれません。先入観を持たず、視野を広げて様々なことに取り組んでください。



材料科学を武器に時代に切り拓く

教授
材料科学専攻

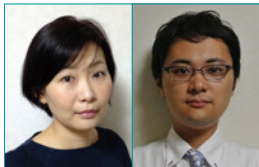
平田 秋彦
HIRATA, Akihiko

教授
材料科学専攻

鈴木 進補
SUZUKI, Shinsuke

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。材料科学は、非常に長い歴史があり、かつ、急速に移り変わる時代とともに発展してきた分野です。現代では、AIやIoTなど情報技術を利用しながらこれらを発展させるのも材料科学の役割です。材料系では産業界から博士人財が強く求められています。社会の変化を敏感に捉えながら、基礎学力、研究力を身につけて、活躍することを期待しています。

「2020年度 学部・大学院1年生ご担当の教員から」



早稲田建築によこそ!

准教授
建築学科

藤井 由理

FUJII, Yui

専任講師
建築学科

石田 航星

ISHIDA, Kosei

建築学科では建築設計やデッサン、構造力学や建築工学実験など多岐に渡る領域について学ぶ必要があります。建築分野の裾野は非常に広いので、それぞれの学生の特性に合った活躍できる場所を見つけられるはず。多くの新入生諸君が経験したことのない知識の習得に加え、製図や実験などの演習を通じて自分の得意な分野や技術を見つけられるよう応援します。新入生の皆さん、入学おめでとう!



ビジョンをもち、行動しよう!

教授
環境資源工学科

大河内 博

OKOCHI, Hiroshi

入学おめでとう。君たちに問いたい。大学で何をしたいのか? 16歳のグレタは気候変動危機を訴え、世界でムーブメントを起こした。ポイヤンは18歳でオーシャン・クリーンアップを立ち上げ、失敗にもめげず25歳で海洋プラスチックゴミ回収に第一歩を記した。君たちには世界を変える力がある。明確なビジョンを持ち、自分の可能性を信じ、勇気をもって行動しよう。早稲田で何を求めるのか? 君たち次第である。



失敗を恐れず挑戦を!

教授
総合機械工学科

岩田 浩康

IWATA, Hiroyasu

准教授
総合機械工学科

石井 裕之

ISHII, Hiroyuki

ご入学おめでとうございます。これからの社会では、既成概念にとらわれず、新しい「もの」やそこから生み出される「こと」、それを担う「ひと」をつくりだす知性と情熱を持った人材が求められています。総合機械工学科では、実践的なカリキュラムを用意し、皆さんが多様な分野へ挑戦できる環境を用意しています。たくさんの方の挑戦を通じて、新しい価値を創造できる人に成長してくれることを期待しています。



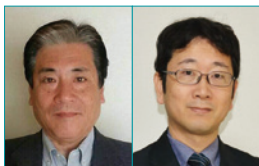
多角的な視点をもって行動しよう!

教授
社会文化領域

シュレヒト ヴォルフガング

SCHLECHT, Wolfgang

新たな生活に期待と不安を抱いていると思いますが、心配はいりません。本校は国際色豊かで、諸外国から学生がきています。日本人だけでなく、他の国々や文化圏の学生たちとの交流も糧となるでしょう。東京では展覧会や芝居など、様々な「新しいもの」に触れられます。勉学に励みつつ、たくさん体験し、発見してください。ここで得たものは、今後の人生の宝物となるでしょう。



最先端のマネジメント技術を

教授
経営システム工学科

吉本 一穂

YOSHIMOTO, Kazuo

教授
経営システム工学科

福重 真一

FUKUSHIGE, Shinichi

ご入学おめでとうございます。グローバルな目標である「SDGs(持続可能な開発目標)」の達成は、固有技術の効率的な経済的な利用なくしては成しえません。必要な「問題発見と解決能力」即ち、「実践的なマネジメント技術」をこの学科で身に付け、社会での即戦力となって下さい。自由な時間・人との交わり・種々のチャンスが格段と広がる大学生活。10年後のあるべき姿をイメージし積極的に取り組んでください。



自分にしかない答えを考え抜く

准教授
経営デザイン専攻

大森 峻一

OHMORI, Shunichi

ご入学おめでとうございます。変化の激しい昨今、答えがない問題に対して、徹底的に考え、仲間と議論し、自分たちなりの解決策を導くことが求められます。是非、考えて考えて考え抜いて、研究・授業においても人生においても、皆さんにしかない答えを導き出してくれることを期待しています。そして、充実した素晴らしい大学院生活になる事を、心より応援しています。



意識を変えよう

教授
社会環境工学科

佐藤 靖彦

SATO, Yasuhiko

教授
社会環境工学科

佐々木 邦明

SASAKI, Kumiaki

ご入学おめでとうございます。大学での学びの本質は何だと思いますか? これまでは、答えのある問題が与えられ、決められた時間にその答えに到達するための訓練をしてきました。しかしこれからは、自身で問題を設定し、その問題の解決方法を自ら見出す能力を身につけなければなりません。早稲田大学社会環境工学科では、その能力を養うための教育・研究環境を用意しています。その環境を生かし、大学生活を大いに楽しんでください。



受身ではもったいない!

専任講師
物理学科

高山 あかり

TAKAYAMA, Akari

ご入学おめでとうございます。大学での物理は「先人たちが見つけた物理法則をフル活用して、自然界の謎を解き明かす」学問です。この世界はまだまだわからないことだらけです。貪欲に知識を吸収し、「どうしてだろう?」と思う好奇心と「やってみよう!」と思う探究心があれば、皆さん自身が、世界の理(ことわり)に触れる瞬間が必ずやってきます。一緒に世界の謎を解明しましょう!

応用物理学科新入学の皆様へ



教授
応用物理学科
小池 茂昭
KOIKE, Shigeaki

ご入学おめでとうございます。高校までと違い、大学では自由に勉強ができます。学ぶべきことは無限にある一方、深く集中して考えることが肝心です。時間を有効に使いましょう。応用物理学科は、幅広い研究分野を擁しており、多くの優れた才能を世に輩出しています。生涯にわたって追求できる題材を焦らずに探して下さい。そして、世界をリードする研究が、皆さんの中から生まれることを願っています。

心の中に“問い”を持ち自発的に学ぼう



教授
化学・生命化学科
寺田 泰比古
TERADA, Yasuhiko

これから早稲田大学という新天地で、学業だけではなく心と身体を鍛えて健康的な学生生活を送っていただきたいと思います。大学に入學して実践すべきことは、試験の解答に正解するのを目的とした学習ではなく、心の中に“問い”を持ち、自発的に、自らの“問い”を解明することを心がけましょう。そうすると高校時代と違って学ぶことがとても楽しくなります。私たちは自発的に学ぶ学生を全力で応援します。

応用化学学科新入生の皆さんへ



教授
応用化学科
関根 泰
SEKINE, Yasushi



教授
応用化学科
山口 潤一郎
YAMAGUCHI, Junichiro



専任講師
応用化学科
小堀 深
KOHORI, Fukashi

ご入学おめでとうございます。応用化学科は、今年で創立103年と伝統ある学科であり、世界をリードするパラエティーに富んだ教員や先輩達が活躍しています。基礎と応用の両面を学ぶことで「役立つ化学・役立てる化学」を身に付け世界で活躍する人材となることを期待しています。高校までとは違う新たな世界が待っていますので、価値観を広げて有意義な大学生活を送って下さい。

未来を拓く礎を作ろう

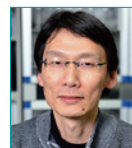


教授
生命医科学科
武田 直也
TAKEDA, Naoya

教授
生命医科学科
武岡 真司
TAKEOKA, Shinji

ご入学おめでとうございます。世界は今、科学技術も人々の意識も速いスピードでダイナミックに変革を続けています。その未来を拓く人材としての礎を築くために、大学生活においては主体的に考え積極的に行動して下さい。生命医科学の学問においても、基礎を確実に身につけた上で社会の諸問題や人に向けた広いまなざしを持ち、世界を豊かにする創造性にあふれた独自の研究を大きく展開して下さい。

自らを切り開く力を!



教授
電気・情報生命工学科
岩崎 秀雄
IWASAKI, Hideo



教授
電気・情報生命工学科
近藤 圭一郎
KONDO, Keiichi



教授
電気・情報生命工学科
宗田 孝之
SOTA, Takayuki



教授
電気・情報生命工学科
高松 敦子
TAKAMATSU, Atsuko

ご入学おめでとうございます。本学科は、電気・電子・情報・生命分野が融合した学際色の豊かな学科です。これら複数の分野の懸け橋となり、さらには新しい分野を自ら切り開いていく人材の育成に向け、教員一同でサポートします。大学時代に学んだ事、そして培った友情は、その後の人生において貴重な財産となります。困った時にはいつでも相談に乗りますので、様々な可能性にチャレンジしてみてください。

On the map!



教授
生命理工学専攻
伊藤 悦朗
ITO, Etsuro

生命理工学専攻では、生物学から医工領域、ロボティクスまでを含有する幅広い知識を身に着けることができます。是非、ご自身の専門だけにこだわらず、多くを学んでください。そして、On the map!を目指して下さい。これは、地図の上に乗っているという意味ですが、すなわち、「有名だ」とか「有名になれ」という意味で使われます。本専攻で良い研究をして有名になってください。頑張りましょう。

学際的な知識を高めるチャンスを生かそう



教授
ナノ理工学専攻
庄子 習一
SHOJI, Shuichi

ご入学・ご進学おめでとうございます。ナノ理工学専攻は、物理学、応用化学、電子工学等多分野の学部教育を受けたバックグラウンドの違う学生と一緒に知識の習得・研究を行う学際的専攻です。IoTやバイオテクノロジー等の産業分野で基盤技術として浸透している機能性ナノ材料やナノテクノロジーの基礎を広く学ぶことにより多角的な視点を持ち、先進的な研究・開発に活用することを望みます。

未来医療の創造



教授
共同先端生命医科学専攻
岩崎 清隆
IWASAKI, Kiyotaka

新入生の皆様、博士課程へのご入学おめでとうございます。患者さん、医療提供者、医療の提供を支える社会等に対して、新たな価値を生む先駆的な医薬品・医療機器・再生医療技術の開発、そして、それらを社会に実装する新たな知の創造が求められています。多様な視点から、人・社会をより良くする価値創造への挑戦を期待しております。充実した大学生活をお送りください。

「2020年度 学部・大学院1年生ご担当の教員から」



健康科学に資する教育・研究を推進する

教授
共同先進健康科学専攻

竹山 春子
TAKEYAMA, Haruko

ご入学おめでとうございます。本専攻は、健康科学に資する研究・教育を早稲田大学と東京農工大学で共同して展開することを目的としています。工学、理学、農学等幅広い分野の教員が参画し、多様な学習カリキュラムや場を提供しています。研究能力だけではなく、幅広い教養や国際的感覚なども身に付けて社会に通用する博士人材を育成することも推進しています。



環境・エネルギー研究科新入生の皆さんへ

特任教授
環境・エネルギー研究科

中西 要祐
NAKANISHI, Yosuke

教授
環境・エネルギー研究科

紙屋 雄史
KAMIYA, Yushi

新たな大学院学生としての目標はたてましたか？
環境・エネルギーという身近でありながら深刻化する問題に対し、自らの研究課題を見出し追求することで、また個人の努力に加えて多くの仲間づくりを通して、これからの諸君の「居場所」を見つけてください。本研究科は、複数の先生による共同指導・演習、工学と学術の学位を目指す学生同士の交流を通して実践的・戦略的な研究活動を応援します。



発想を豊かに、アイデアを実現しよう！

教授
共同原子力専攻

古谷 正裕
FURUYA, Masahiro

准教授
共同原子力専攻

山路 哲史
YAMAJI, Akifumi

ご入学・ご進学おめでとうございます。共同原子力専攻は本大学と東京都市大学との連携で開設されました。以来、物理や化学、生物など様々な分野を学ぶことで発想を豊かにし、教室や研究室で議論を深めています。皆さんのアイデアを基に、実験やシミュレーションを通じて学理を追求します。皆さんのアイデアを研究に活かして、新発見に繋げましょう！

「ご着任の教員から」



5年一貫制で付加価値を高めよう！

教授
先進理工学専攻

村田 昇
MURATA, Noboru

ご入学おめでとうございます。先進理工学専攻は、理工で唯一の5年一貫制博士課程が設置された専攻です。国際社会が抱える課題に取り組む理工系博士人材の育成に産学官協働で取り組み、5年間かけて深い専門知識（専門力）、課題設定・解決に資する広い視野（俯瞰力）、未知の世界に挑戦する志（進取力）を涵養します。本専攻独自の様々な活動を通して自らの付加価値を大いに高めて下さい。



数学アタマを鍛えよう！

教授
数学科

池田 岳
IKEDA, Takeshi

新入生の授業は、理工系学問の基礎である線型代数学を担当します。計算のテクニックだけではなく、新しい頭の使い方も身に付けてもらえるような講義にするつもりです。遠慮しないでどんどん質問してください！早稲田の学生の皆さんと話すことをとても楽しみにしています。等質空間と呼ばれるツルツルした空間の中にある、ところどころトンがってる物体どうしが交錯する様子を代数的な手法で研究しています。



広い海原へ船出する皆さんへ

教授
情報生産システム研究科

大澤 隆
OHSAWA, Takashi

皆さんは遠い将来に思いをはせつつも、これから始まる新たな生活に胸を躍らせていることでしょうか。そうです。大学、大学院ではそれぞれ今まで経験したことのない未知の世界があなた方を待っています。今までよりも大きな責任と自覚を持って困難に立ち向かわなければならなくなることも多いと思いますが、それらを克服することで、自信と勇気を身につけられるはずです。初心を忘れずに頑張ってください。



生命科学と離散数学

専任講師
応用数理学科

早水 桃子
HAYAMIZU, Momoko

4月から基幹理工学部応用数理学科の一員となる早水桃子と申します。研究分野は医学や生物学のデータ解析に関わる離散数学で、基礎的な理論研究から実用的なソフトウェア開発に及ぶ幅広いテーマに取り組んでおります。特に重点的に進めているのは生物の進化の道筋を解き明かす系統学という分野の理論研究です。これから早稲田大学の優秀な学生の皆さんにその面白さを伝え、共に研究できることを楽しみにしております。

「ご着任の教員から」



早稲田発の新素材開発

准教授
機械科学・航空宇宙学科

荒尾 与史彦
ARAO, Yoshihiko

私は2000年から2011年まで、早稲田大学の学生～助教として過ごしました。その後、他大学で武者修行をし、約10年ぶりに早稲田大学へ戻れることを大変嬉しく思います。私自身は新しいナノカーボン材料を作ることについて研究しておりますが、これをどのように使っていくかはまだ手探り状態です。早稲田大学の優秀な学生、そして才能あふれるスタッフと協奏していくことで、早稲田発のイノベーションを生み出していきたいと考えております。



真の「人工知能」を目指して

教授
情報通信学科

河原 大輔
KAWAHARA, Daisuke

我々人間は言語を用いて考え、コミュニケーションします。このような基本的な言語活動ができる人工知能システムの実現に向けて研究を進めています。現在、人工知能ブームで、2045年にはシンギュラリティが来ると言われますが、言語の理解にはまだ程遠い状況です。次の25年間でブレイクスルーとなる研究成果を上げるとともに、世界で活躍できる人材を育成していきたいと思います。（結果は25年後？の退職の挨拶でご確認ください。）



構造最適化と3Dプリンタで理想の形を

准教授
機械科学・航空宇宙学科

竹澤 晃弘
TAKEZAWA, Akihiro

最近では3Dプリンタの発達で、自分の考えた形を実物にすることが容易になっています。私の研究テーマはコンピュータに最適化形を自動設計させる構造最適化という技術ですが、初めて3Dプリンタで試作した時は、コンピュータから物体が飛び出して来たかのような驚きと感動がありました。このような感動を学生の皆さんと共有しながら、構造最適化と3Dプリンタという二つの技術の発展に貢献したいと考えております。



美しい構造の探求

教授
建築学科

早部 安弘
HAYABE, Yasuhiro

どんな形にも構造はあります。生物にも人工物にも構造はあります。構造とは物体を安定して支える「しくみ」そのものです。私の建築構造デザイン研究室では、そのような「しくみ」の合理性と力学的に美しい形とは何かについて研究しています。2018年より早稲田大学に赴任しましたが、今年度から専任教員になりますので、いよいよライフワークテーマとして「美しい構造」を若い学生と一緒に探求していきたいと思っています。



着任にあたってのご挨拶

准教授
機械科学・航空宇宙学科

山口 誠一
YAMAGUCHI, Seichi

皆さま、はじめまして。20年前に早稲田大学理工学部に入學して以来、機械工学の視点から環境やエネルギーに興味を持って研究をしてきました。このたび伝統ある早稲田大学のメンバーに加わることに大変身の引き締まる思いです。最後に、2019年度卒業・修了の学生の皆さん誠におめでとうございます。そして2020年度新入生の皆さん、ようこそ早稲田大学へ。授業や研究室でお会いできるのを楽しみにしています。



早稲田という風土で

准教授
建築学科

山田 宮土理
YAMADA, Midori

10年ほど前に早稲田大学大学院を修了し、博士課程、助手、他大学教員を経て戻る事になりました。在学時代と異なるのは母となったことです。夫と支え合いながら、時に子どもを連れての泊りがけの調査に行くなど、仕事と育児を線引きしすぎずに、興味ある研究にのめり込んできたつもりです。在学時代に熱い風土のある早稲田で学べたことが大いに役立っており、そんな早稲田で皆さんと一緒に奮闘できる事を楽しみにしています。



最適化理論・学習理論、機械学習と応用

教授
情報通信学科

笠井 裕之
KASAI, Hiroyuki

2000年に旧電子通信学科で博士の学位を頂きました。この度、情報通信学科で教育研究に携われるチャンス頂き、深い感謝と期待と責務を感じています。いつの時代もエンジニアリングの世界の変化の速度は増すばかりです。本学で身に付ける「総合的な基礎力」をもって、基礎科学と実学を有機的に結び付けていくことが、今、強く求められていると思います。分野横断的教育研究活動を通して、本学、社会の発展に寄与していく所存です。



未知・未解明の現象の理解を進める

准教授
総合機械工学科

松田 佑
MATSUDA, Yu

名古屋大学から異動して参りました。表題のようなスタンスで研究を推進しております。環境問題への取り組みが進む中で、各種のエネルギー機械では高効率化と好環境化が進められてきました。さらなる高効率化のためには、生じている現象を詳細に理解し、原理原則に基づいた研究開発が一層重要性を増します。このような観点から、それまで見落とされていた、あるいはより詳細な情報を実験によって掘り起こし、現象を深く理解することを目指しています。

「ご着任の教員から」



社会のサステナビリティにデザインで貢献

教授
経営システム工学科福重 真一
FUKUSHIGE, Shinichi

大学は新たな知識を生み出していく場であるとともに、各分野における専門知識を製品やサービスなどの形で具現化していくためのデザイン力を身に付ける場でもあると思います。経営システム工学科では、様々なシステムのデザインプロセスを体系的に学ぶための教育プログラムが提供されていますが、この環境を活かし、社会のサステナビリティに資する斬新な価値を創出していくことのできる人材を育成していきたいと思っています。



持続可能な地域社会の実現を目指して

准教授
環境・エネルギー研究科野津 喬
NOZU, Takashi

公共政策分析の観点から、再生可能エネルギーなどの地域資源の活用やイノベーションを通じた、持続可能な地域社会の実現に向けた研究を行っています。また以前は実務家として、官庁で環境分野と地域・農業分野が交錯する領域の政策立案を担当していました。この領域はまだ新しく、解決すべき社会的、学術的課題が数多くあります。様々な課題について学生の皆さんと共に議論し、研究していくのを楽しみにしています。



言葉の学習と運用のメカニズム

准教授
英語教育センター折田 奈甫
ORITA, Naho

人間はどのようにして言葉を学び、理解し、話すのでしょうか。このような問題の根底にある原理の解明に興味があります。計算機モデルを用いた実験、人を対象にした実験、言語データの統計解析など、文理問わず様々な方法で研究してきました。早稲田では、科学者として英語を実践的に使ってきた経験を生かし、理工系の学生の英語学習をサポートします。言葉は身に付けば一生ものの財産です。一緒に学んでいきましょう。

「ご退職の教員から」



早稲田大学を退職するにあたって

教授
数学科上野 喜三雄
UENO, Kimio

1988年（昭和63年）4月、前任校の横浜市立大学文理学部から本学に赴任して参りました。定年退職まで3年あるのですが、この3月に選択定年することに致しました。

赴任以来、恩師である数学科の先生方に囲まれて、大学人としてのあるべき姿を学びながら、学生の教育指導と研究に打ち込んで参りました。前任校から通算して37年間の大学人生活でしたが、この間、多くの先輩、同僚から温かいご指導とご厚誼を頂き、とても幸せな充実した時間を過ごすことができました。唯々感謝の言葉しかありません。

大学を取り巻く社会環境は、赴任した当時とは比較にならないほど厳しさを増していますが、私は若い人の力を信じます。大きく社会に羽ばたいてよりよい未来を創って下さい。



早稲田大学での宇宙物理学の研究

教授
物理学科辻川 信二
TSUJIKAWA, Shinji

私は1996年から5年間、早稲田大学に大学院生として在籍し、このたび19年ぶりに物理学科の教員として戻ってまいりました。24年前に入学したときと同じような新鮮な気持ちで、宇宙論の研究と教育にまた新たな視点から取り組んでいく予定です。特に、早稲田大学は私を研究者として育ててくれた原点の場所であり、今後は良質な研究成果を発信することと後進の積極的な指導により、大学に恩返しをしたいと考えております。



分子の物性と動態から脳の仕組みを知る

教授
電気・情報生命工学科坂内 博子
BANNAI, Hiroko

当研究室では、生体を構成する分子の物性と動態というナノスケールの生命情報から、脳の仕組みを理解することを目指しています。現在社会問題にもなっているアルツハイマー病などの脳神経疾患発症機構の解明にも取り組んでいます。世界でまだ見つからない現象や原理を発見することのワクワク感と、未知の問題に取り組むための知識とスキルを、早稲田大学の学生さんに伝えられるように頑張ります。



未来は諸君のもの

教授
機械科学・航空学科川本 広行
KAWAMOTO, Hiroyuki

本学の教員に着任して21年、研究・教育ともに大変充実した年月を過ごさせていただきました。学生諸君の新鮮なアイデアに触発されて、いささかなりともオリジナリティのある研究や産業に資する研究を行うことができたと自負しています。また、多くの有為な学生を社会に送り出すことができました。まったく悔いが残らないわけではありませんが、私にできることはほぼやり切ったという心境です。いっぽう、新入生諸君はまさにこれからです。早稲田大学には、諸君が自らを高めるための場が提供されています。次世代を担う人材となるべく、勉学やサークル、友人関係など、大いに研鑽して下さい。未来は諸君のものです。

「ご退職の教員から」



国際連携を目指した教育と研究活動

教授
情報通信学科
佐藤 拓朗
SATO, Takuro

世界中から留学生を受け入れ世界の大学や研究機関との連携を目指して創設した早稲田大学国際情報通信研究科へ移籍したのが2004年です。多くの留学生やJICEの派遣学生を受け入れ、国際的な環境の中で、大学院教育や研究活動を続けていました。留学生達とセミナーハウスで夏合宿を過ごし、自宅でパーティを開催し公私共に一緒に過ごしてきました。卒業後、母国の大学で教鞭をとったり、研究所で働いたり、起業したり日本の企業で活躍している卒業生も多くいます。卒業生が日本へ立ち寄ると一緒に食事をしながら情報交換します。2013年国際情報通信研究科が基幹理工学部へ包摂してから多くの留学生を受け入れてきました。今後も卒業生達との連携を図りながら成長を見守ってゆければと思います。



世界に目を向けましょ

教授
建築学科
西谷 章
NISHITANI, Akira

修士課程を修了してから、New Yorkのコロンビア大学の博士課程に進みました。以前から留学志向があったわけではなかったのですが、さまざまな出会いをきっかけにして、コロンビア大学に留学する機会を得ました。米国では、言葉、生活環境、指導教授と学生の関係、すべてが日本とは大きく異なっていて、日本の常識が世界の常識とは限らないことを認識しました。New Yorkという街そのものは有名建築の宝庫であるばかりでなく、文化・芸術の発信地でもあり、音楽や絵画などに身近に触れることもできました。New Yorkで過ごした5年間は、自分自身を確実に変化させたと思います。いまの私の、スタンス・スタイルはこの5年間でなかったら、全く違うものになっていたと思います。学生のみなさま、内向きにならずに、ぜひ世界に目を向けてください。



早稲田大学に感謝

教授
情報通信学科
高畑 文雄
TAKAHATA, Fumio

早稲田大学に、1988年(昭和63年)4月に着任し、2020年(令和2年)3月をもって退職いたします。平成時代を丸々含む32年間という長きにわたり、早稲田大学に勤務できたことは、本当に幸せでした。その間、理工学術院への改組があり、専門とした無線通信分野の研究内容は大きく変化しました。教育に関しては、正確かつ効率よく、神髄を教えることに試行錯誤しました。教職員の皆様、研究室の学生諸君、大学の先輩・後輩、関係の多数の方々に支えられました。感謝以外の言葉は思い浮かびません。早稲田大学はとても素晴らしい大学です。これは、学生時代を含み38年間キャンパスに通った私の感想です。これからも早稲田大学を誇りに思い続けるとともに、益々の発展を祈念しております。



理工学術院の発展を祈って

教授
総合機械工学科
勝田 正文
KATSUTA, Masafumi

1982年から38年間教員を務めさせていただいた。この間、我が理工学術院は変革の連続であった。大きくは理工学部の解体と新しい3学部体制、個人的には環境・エネルギー研究科(本庄)の創設(2007年)である。後者には個人的にかなり力を入れたつもりである。学生時代から大久保(西早稲田)で過ごしたので、この変革は教育さらには研究面でも進んだと認識できる。すなわち、専門性を重視したきめの細かい教育や、社会連携を重視した研究への変化である。今後もこの変革は続くと思うが、卒業し社会人になってから振り返りができる教育をお願いするとともに、退職に当たり、理工学術院の益々の発展をお祈りする。



寄り道と回り道

教授
建築学科
小松 幸夫
KOMATSU, Yukio

私の中学時代の国語は3年間で1冊の小説を読むという授業で、ひとつの文章に出てくる言葉からどんどん話を広げていくというスタイルであった。時には数行の文章に何回かの授業時間を費やすこともあったように思う。その先生は後年、寄り道を厭わないことが大事と話されていた。また私は大学院受験に失敗して1年間の回り道をした経験があるが、この間にいろいろな知識も含めて自己というものの基礎ができたと思っている。また研究ではあちこち寄り道できることだけが自分の取り柄で、これは国語の授業のおかげと感謝している。効率ばかりを追求する傾向のある昨今であるが、一見無駄に思える回り道や寄り道が実は大事だとお伝えして早稲田の皆様への御礼としたい。



サーキュラエコミの実現を目指した28年間

教授
経営システム工学科
高田 祥三
TAKATA, Shozo

ともに学んだ約260名の研究室OB/OGの方々、つたない授業を聞いてもらった約3,000名の卒・修了生の方々、そして学科、専攻、さらには大学の教職員の方々のお陰で28年間充実した時を過ごさせてもらうことができました。厚く御礼を申し上げます。

1992年に着任した頃から取り組み始めた資源・環境にやさしい循環型生産が、最近のサーキュラエコミの掛け声とともにようやく実現の兆しが見えてきたのは嬉しい限りです。急速に発達する技術とめまぐるしく変化する社会といわれますが、本当に社会が変わるにはそれなりの時間が必要ということでしょうか。そのような、大きな流れを見据えた研究が、これからこの西早稲田からどんどん発信されていくことを祈念しています。

「ご退職の教員から」



自分の可能性を信じて行動しよう！

教授
英語教育センター
上野 義雄
UENO, Yoshio

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。みなさんの無限の可能性が各自の専攻分野で十分に開花することを期待します。この理工学術院にはそれを可能にするだけの環境がすべて整っています。ぜひ、世界に羽ばたいて、次世代を担う研究者・技術者になってください。また、自分に合う分野を求めて専攻を変えることも可能です。私の場合は、学部で数学、大学院で言語学を学びました。修士修了後、フルブライト委員会とシカゴ大学から4年間保証付きの奨学金(学費免除+生活費)を得て、シカゴ大でPh.D.を取得しました。これは今日でも十分に可能です。ただしそのためには、卒論や修論を英語で書くことを含め、在学中に高い英語力を身につける必要があります。



生涯現役で研究を続けます

特任教授
経営デザイン専攻
光國 光七郎
MITSUKUNI, Koshichiro

2010年4月から10年間、創造理工学研究科経営デザイン専攻で経営管理(経営工学)に関する研究と教育を担当しました。研究室のテーマは生産・流通プロセス改革に関する事業構造の改革をテーマとしています。その研究成果を「グローバルSCM時代の在庫計画理論」「知識創造時代の事業構造改革」「在庫と事業経営」「SDGs時代の経営管理と心根」の教科書と教材にまとめることができ、学生の皆さん、教員の皆さん、受託研究で応援くださった企業の皆さんに感謝しています。2015年からはSDGsをテーマに企業の事業構造の在り方の研究を続けています。研究に定年はありません。70歳の定年後も引き続き社会貢献します。よろしくお願いいたします。



集まり散じて人は変われど

教授
応用物理学科
大谷 光香
OTANI, Mitsuharu

1990年9月に東海大学から古巣の応用物理学科に戻ってから約30年間、早稲田大学にお世話になり、定年を迎え退職することとなりました。

着任当初に比べ、我々を取り巻く社会・学内の環境は、当時には想像もできなかったくらい大きく変化しました。特に電子技術の急速な発展に支えられ、インターネットや携帯の電話の普及により、海外研究者とのコミュニケーション手段が格段の進歩を遂げ、研究のスピードも加速されました。

しかしながら一方では、エネルギー問題や地球温暖化などの大きな課題も突きつけられています。これ等の問題と折り合いを付ける新たな科学技術の進展を担う人材として、早稲田大学に集まった皆さんの今後のご活躍を期待しております。



私は早稲田大学が大好きです。

特任教授
共同原子力専攻
師岡 慎一
MOROOKA, Shinichi

高校、大学(機械工学科)、大学院(修士、博士)と早稲田大学で過ごし、企業に入社し2010年に母校に戻ってきました。

早稲田大学の10年間 優秀な学生、教員そして職員の方々のおかげで充実した時間を過ごすことができました。本当に感謝しています。

どうしても、社会に出ると忙しさのため、考えることを忘れてしまいます。学生さんに教えたことは“自分で考え、何故という疑問を持つこと、成果をあげることも重要ですが、安全・健康第一そしてルールを守る。”ということです。学生さんには、他の人の言うことに惑わされないで、自分の意思でこれからの人生を生き生きと過ごしてくれることを望みます。

最後になりましたが、私は早稲田大学が大好きです。



未来をつくる

教授
応用物理学科
小松 進一
KOMATSU, Shinichi

応用物理学科に入学して52年、理化学研究所から専任講師として戻って42年が経ちます。理研時代もゼミには毎週出席していたので、インペリアルカレッジでの在外研究期間を除いて半世紀、理工キャンパスに通いました。

合格発表の日、初めて見た打ち放しコンクリートの校舎が新鮮に見えたこと、入学手続きで、職員の方が明るく親切だったことを思い出します。理工生協店には分野別の計算尺が並び、華やかに入学セールをしていました。

「未来は予測できないが、未来をつくることはできる」とよく言われます。よい未来をつくるために、自分で考えることが大切ですが、私の場合、良い仲間に出会えた幸運と、その機会を与えてくれた早稲田に感謝しなければなりません。



本庄キャンパスでの十三年を振り返って

教授
環境・エネルギー研究科
吉田 徳久
YOSHIDA, Tokuhisa

2007年に本庄キャンパスに環境・エネルギー研究科が開設されて以来、十三年にわたり環境政策・科学を専門に教育と研究に携わってきました。本属は理工学術院ですが、当時は“環境・持続可能論”が隆盛でしたから、政治経済学術院での学生指導と法学学術院の授業もお引き受けしました。また、全学共通副専攻「戦略的環境研究」を立ち上げ、コーディネーターを務めました。2009年以来実施してきた、北京大学との共同授業「日中環境実践研究」は、両大学の学生交流を通じて、日中両国の持続可能な発展の道を探るもので、ひととき思い出深いものになりました。これまでのご厚誼に深謝するとともに、理工学術院の今後のご発展を心より祈念して、退任のご挨拶といたします。

西早稲田キャンパスの1年

4月 入学式



11月 理工展



8月 オープンキャンパス



11月 ペアレンツデー



8月 小・中学生のための科学実験教室「ユニラブ」



キャリアイベント



10月21日 創立記念日



3月 学位授与式





<https://www.waseda.jp/fsci/>